

第5回 出雲市水道事業推進懇話会 会議録

1. 開催日時 平成31年3月19日(火) 14:00～15:40

2. 開催場所 出雲市上下水道局2階入札室(会議室)

3. 会議の出席者

(1) 委員(8名)

井上千晶 委員(会長)	金村英俊 委員	神谷哲男 委員	高野智子 委員
佐藤彰尾子 委員	中川弘美 委員(副会長)	園山裕美 委員	安井多喜恵 委員

※欠席者6名

足立修司 委員、曾田博美 委員、曾田満子 委員、錦織文子 委員

山田 学 委員、山本富子 委員

(2) 出雲市(8名)

上下水道局	局長 田中勤一、次長(水道営業課 課長) 佐藤恵子
水道営業課	課長補佐 妹尾俊彦、主任 上原和也、主任 岡 貴行
水道施設課	課長 岡 芳幸、課長補佐 吾郷 誠
河南上下水道事務所	所長 三木 整

4. 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 講演

・出雲市水道事業の災害対応について

(4) 議事

・水道料金の改定について

・出雲市水道事業 基本計画について

・出雲市向山配水池等再構築事業の状況について

・平成31年度出雲市水道事業会計 予算概要について

・その他

(5) 閉会

5. 意見・質疑等(別紙のとおり)

【別紙 意見・質疑】

(1) 講演に対する意見・質疑

(委員) 給水車が何台も出たということであったが、山間部でもあり山水を引いておられる方もおられたか。また、何日間もお風呂に入れなかった方もおられたのか。

(事務局) 時間的に言うと 20 時頃に災害が起こったが、23 時前には給水活動を開始していた。風呂に入れなかった方はあまりなかったと思う。また、温浴施設の無料券なども配付していた。

(委員) 災害に対するマニュアル、ここで起きたらどうするかとか、決まっているのか。

(事務局) 場所によって水の流れが違うので、その都度、判断するしかない。迅速に対応できたのも、詳しい即決できる人が居たからだと思う。山間部は特に複雑なので、これらを知っている人材をたくさん育てようと努力している。

(委員) 災害が起こりやすいということで、住民の方も準備されているのか。

(事務局) 具体的に聞いたことはないが、山水や谷水・共同井戸を併用しているところもある。

(2) 議事に対する意見・質疑

(委員) 管路の更新や耐震化のために大変な努力をされていることがわかった。水の重要さも理解でき、水道料金値上げもいたしかたないと思う。ライフラインを守るという強い使命感をお持ちだということも感じる事ができ、これからも水を大切にしたい、ペットボトルに頼らず水道を使わせていただきたい、と思った。

(委員) 私たちは安全で安心な水を使わせていただいている、ありがたいと思った。災害時に限らず、暮らすには水が大事であり、皆さまの努力によって健康に暮らせてもらっているという思いを持った。どんな時にも水が使えるようにという思いがあるので、水道料金が上がることも仕方ないことで、皆で協力していくことが出雲市の発展につながっていくのではないかと思った。

(委員) 今後、減収していくとのことだが、さきほど説明された計画が本当にできるのかなという思いもある。あと、コンセッション方式、民営化について、どういうお考えであるか。

(事務局) 水需要の減少も見込んだ上で 12.5%の改定としていて、それによる年間約 3 億円の増収を見越している。料金の改定期間は 4 年間だが、むこう 10 年を見越した上で、工事は順調に全部できると踏んでいるので安心していただきたい。

また、コンセッション方式は、所有権は事業体にありつつ、維持管理・料金徴収などを企業にやってもらう方式で、一般的に水質と料金値上げが心配される場所であるが、料金は事業体が条例で決めることになっており、水質についても 50 くらいの検査項目があり担保できる。試算的には、30 万人以上の事業体で成り立つと想定され、出雲のような地理的条件だと国内で手を挙げ

る企業はないと思われる。現在の出雲市水道事業については、計画的な更新もできると思うので、導入の考えはない。

(委員) 今後もクオリティーとコストを守って事業を進めていただきたい。

(委員) 県内でも料金に差があることなど、勉強になった。人口が減少する中で、使用者が少なくても整備をしなければならないという中、予算的に厳しくなるのは仕方ないと思う。世界の中で水道の水が安全に飲める国は少ないので、日本は高い技術を持っている。そういう技術を持続させながら、我々も一緒に勉強をして取り組んでいけたらと思う。

(委員) 聞くことがすべて新しく、勉強になった。蛇口をひねれば当たり前のように水が出るということがすごく大切な事だと考えさせられた。これから会を離れても、いろいろ勉強して、水道について考えながら生活していきたい。

(委員) 主婦目線で話を聞いてきた。蛇口をひねれば当たり前のように水が出る中で、ポンプや配管など気にせず使わせていただいていた。日々、局の皆さまが苦勞されていると改めて分かった。懇話会の参加者が少ないことが気になったので、皆さん都合がつく日程にされたらと思った。

(委員) 若い世代はペットボトル飲料等を飲んでいて、水道水を飲むことが減っていると感じる。民営化については、各国でも問題が起きていると聞いている。水は人のためにあるという思いで行政にはやっていただきたい。

また、向山配水池はメンテナンスフリーということであったが、ステンレスだから大丈夫、ということなのか。

(事務局) 従来はコンクリート製のものであり、内部に塗装をして膜をつくるということをしてきたが、経年劣化して剥げてくる。ステンレスはそれがないが、定期的な掃除や亀裂の点検などは日頃から行っている。

(委員) 病院から地域へという時代であり、災害などのいざという時の備えを、それぞれ地域の特性を踏まえて準備ができるよう、情報伝達などが必要なのかなと感じた。医療だけでなくライフラインへの備えも一緒に考えていかないといけないと思った。

懇話会は市民目線から水道事業を知ったり、意見を言ったりという目的だったと思う。委員それぞれが考えたり、情報を広めたり、意識を向けたりと、それぞれの立場で目的を果たせたのではないかと思う。